
翻訳機

ポテトバサー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

翻訳機

【コード】

N29590

【作者名】

ポテトバサー

【あらすじ】

6作目となりました。未来で完成した翻訳機による騒動の物語です。短いので気軽にどうぞ。他の作品も短いのでこちらも読んでみてください。

(前書き)

「いろんな言語を自由に操りたい」という思いから作った作品です。
短編小説6作目です。

二十二世紀をそろそろ迎えようかという世界は、とある企業が開発したものに熱狂した。動物や魚、虫たちと会話が出来る翻訳機が完成したからであった。開発した企業も消費者の混乱を避けるため、かなりの量を生産し、完全予約制とした。それでも翻訳機は売れに売れた。

この翻訳機が発売されて嬉しかったのはペットを飼っている人達だけではなかった。検察や警察、弁護士も大いに喜んだ。翻訳機の性能の高さから裁判での証言が認められたからだ。未解決事件は次々と明らかになり、犯罪の抑止、冤罪は減少した。また動物医療センターも同様だった。動物たちは人間のように正確に症状を訴えてくれたからだ。そして、まれではあるが動物への虐待も見つけることが出来た。

翻訳機が売り出されて幾年かの時が流れた。翻訳機を開発した企業は、各国の要望に応じて翻訳機のナノマシン化に成功した。ナノマシン翻訳機は空中散布により世界の隅々まで行き渡った。

「これで、より動物と人間との関係が親密なものとなるだろう」

世界の人々はそう考えていた。だがそれは人間の勝手な考えであり間違いだった。メスの牛達はセクハラを訴え、豚達は豚権の侵害・殺豚事件だと業者を相手取った。虫たちも殺虫剤の販売禁止を求めた。森の動物、虫達はというと、自分達の住処を守る為、食料を守る為に大規模なデモ運動を起こした。TV局も対応に迫られていた。動物達にプライバシーの侵害で講義を受けていた。

「これで人間と動物の関係が逆転するだろう」

世界の動物達はそう考えていた。だがそれは動物達の勝手な考えであり間違いだった。いや、そもそも間違いはナノマシン化したことだった。ナノマシン翻訳機は植物の中にまで入り込んでいた。声を荒げていた動物達もそうはいかなくなってしまった。木の実や葉を食べようにも植物達が許さなかった。終いには酸素に値段をつけ始めてしまった。

「これで他の生物は植物に従うしかないだろう」

世界中の植物達はそう思っていた。だがそれは植物達の勝手な考えであり間違いだった。人間も動物も我慢の限界に達していた。史上初となる人間、動物、植物による世界大戦が行われようとしていた。そして開戦前日の異様な空気の中、今まで黙っていた彼女が遂に一言を発した。

「争いをやめないと私・・・爆発しちゃうからね？」

どんな生物でも母なる地球には敵わないのだった。

(後書き)

読んでくださってありがとうございます。

短編を意識しすぎた文章の書きかたで読みづらいのかなと反省しています・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2959o/>

翻訳機

2011年1月13日00時08分発行